



GREEN LETTER

グリーンレター

Vol. 264

2018/12/01

今月の一枚

今月のイベント

参加者募集

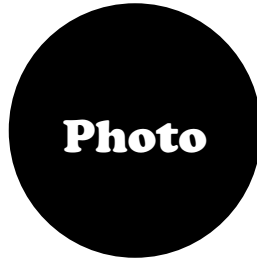
GREEN COLUMN

01. 駒生川の手作り魚道

02. 版画の魅力をちょこっと紹介



今月の一枚



「マスの当たり年」

表紙写真・文／町田善康

今年は、やたらとサクラマスとカラフトマス（写真）の遡上数が多い年でした。サクラマスは、モニタリングを毎年行っている川で2倍以上の遡上量。いつも遡上していない上流の小さな支流にまで遡上していました。カラフトマスの方も、美幌川にたくさん遡上し、いたるところで産卵していました。これだけ多くの魚が遡上したので、来春の稚魚の誕生が楽しみです。

Event. 今月のイベント

企画展「おひろめコレクション展」 12月8日(土)～平成31年1月20日(日)

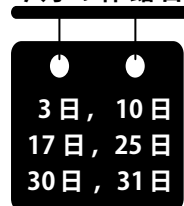
プチ工房「タイルで作るクリスマス飾り」 12月12日(水), 14日(金)

Information. 参加者募集

プチ工房 「タイルで作るクリスマス飾り」

●12/12(水), 14(金) 10:00-12:00, 14:00-16:00 自由に入室。作品ができたら終了 ●美幌博物館 1F 講座室 ●材料費(300円) ●城坂結実(美幌博物館) ●申込み不要。小学校3年生以下は保護者の同伴が必要。

今月の休館日



〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用, 持ち物 ●講師 ●申込み方法

駒生川の 手作り魚道

写真・文／町田善康



2009年から駒生川の魚類調査を始めて、今年で10年になります。毎年、秋になると産卵遡上する魚の観察と、生息個体数の調査を行ってきました。調査を始めた2009年には、川に設置された9基の落差工（川の流れを調整するためにつけられた段差）の影響で、上流域に魚が遡上することができず、一生を川で暮らすハナカジカとヤツメウナギしかいませんでした。その後、2012年に住民手作りの魚道が設置され、サクラマスとイワナが遡上し、産卵しました。一方、サクラマスやイワナの増加に伴って、ハナカジカ（写真）が減少する傾向にありました。おそらく3種類が虫や魚を食べる肉食性魚類なので、食べ物が重複し、争いがおこったのではないかと考えています。これまで、魚道を設置すればすべての魚に恩恵がもたらされると思っていたましたが、ハナカジカ

のように生息数が減少する種類の魚もいるのだと驚きました。

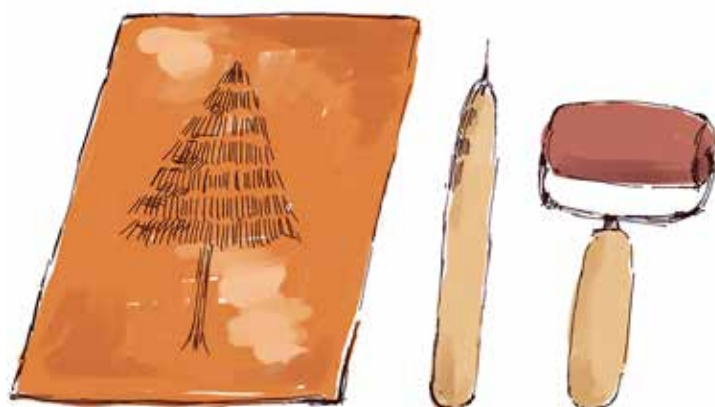
さて、今回まとめた調査結果は、応用生態工学会の事例研究に論文を投稿しました。タイトルは、「複数の手作り魚道はサケ科魚類の生息場所の回復に寄与したのか？」です。先日、論文が受理され、多くの皆さんの協力で作成した手作り魚道の成果を発表することができました。また、外部機関に駒生川の成果をキチッと評価してもらうことで、科学的にも手作り魚道の成果を立証することができました。

02 GREEN COLUMN

グリーンコラム

版画の魅力を ちょこっと紹介

絵・文／久保田結衣



現在、第3展示室では、3点の
版画作品を展示しています。

美幌町出身の画家、^{まつもとゆうじ}松本優治の銅版画
^{おんちよう}「恩寵」・「夜の会議」と、スペインの
抽象画家、ジョアン・ミロのリトグラ
フ「題不詳」です。作品を説明する際
によく驚かれますが、同じ版画でも異
なる技法が使われています。

版画の技法は、大きく木版画・銅版
画・リトグラフ・シルクスクリーンに
分類されます。今回は、第3展示室
でご覧いただける、銅版画とリトグラ
フについて紹介します。

銅版画は、1470年代にイタリアで
登場しました。ニードル（絵中央）で
銅版を削り、できた溝にインクを乗せ
て印刷する技法です。綿密な描画が可
能で、当時、多くの画家が取り入れま
した。また、銅版画の登場により大量
印刷が可能になり、一般の人も作品を
安く手に入れることができ、芸術の普

及にも役立ちました。松本優治の作品
には、櫛のような形の刃で幾度も銅版
を削り、奥行きのある黒を表現する「メ
ゾチント」が施されています。

リトグラフは、石版に油性の描画材
で直接描き、水と油の性質を用いて刷
る技法で、1700年代後半にドイツで
登場しました。筆や鉛筆でそのまま描
いたような表現と、多色刷りが可能に
なり、広告印刷の技術として1800年
代半ばに広まりました。代表的な画家
に、アルフォンス・ミュシャが挙げら
れます。ミュシャは主に、広告芸術の
分野で著名になり、美しい彩色が評価
されました。

版画の技法によって、過程や特徴が
異なるのがおもしろいところです。

次のコラムでは、木版画とシルクス
クリーンについて紹介をしたいと思います。

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253-4

Tel / 0152 (72) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/museum/index.html>

無断掲載・転載を禁ずる

【お知らせ】

年末年始の休館日は、12/30 ～ 1/6 です。

それに伴い、グリーンレター 1 月号は休刊となります。

みなさまよい年末年始をお過ごしください。

学芸員のつぶやき



北海道に来て初めての冬を越します。タイヤ交換をし、雪かきグッズを買い、冬に備えているところですが、先日ガス代の金額にびっくり…！体調を崩さない程度に、節約しなくてはなりません…。

(久保田)